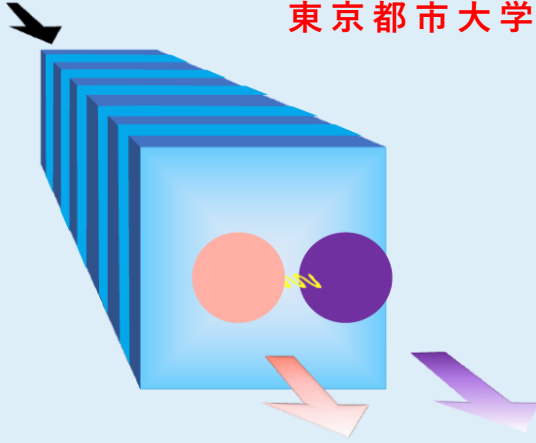


分極反転光材料・デバイスの 発展と応用

2024/3/23 (Sun) 13:30 ~

東京都市大学 7号館71B



強誘電体の自発分極を反転することで実現できる分極反転デバイスは、非線形光学の領域で重要な地位を占めてきた。波長変換デバイスとして、電気光学変調デバイスとして、光源の応用分野を拡大することに貢献してきている。近年特に量子光学においては、量子光源や量子中継のデファクトスタンダードになっており、このデバイスが光学システムの設計に必須となっている。

本シンポジウムでは分極反転デバイスの光応用について、その発展の歴史と現状を振り返り、未来に向けた新たな発展の方向を探る。当該分野の先駆者だけでなく、量子光学分野の新進若手研究者も招へいし、全体像を把握できるシンポジウムとなっている。

分極反転光材料・デバイス – 歴史と未来 –

栗村 直 (物質・材料研究機構)

分極反転波長変換材料の開拓

廣橋 淳二 (オキサイド)

高出力レーザー用擬似位相整合波長変換デバイス

石月 秀貴、平等 拓範 (理研、分子研)

分極反転技術による高速光変調・光 – 高周波変換デバイス

村田 博司 (三重大院工)

周期分極反転結晶のフェムト秒光量子技術への応用

早瀬 潤子 (慶大理工、慶大CSR)

分極反転デバイスの量子インターネットへの応用

生田 力三 (阪大基礎工、阪大QIQB)

分極反転結晶を用いた可視赤外量子もつれ光の同時発生

田中 耕一郎 (京大理物理)

分極反転デバイスを用いた量子もつれ光源とその応用

岡本 亮 (京大院工)

分極反転デバイスによる時間-周波数量子もつれ光の操作と検出

清水 亮介 (電通大情報理工)



世話人：興 雄司 (九州大学)

高 磊 (産業技術総合研究所)